

令和5年度心のバリアフリー教育グッドプラクティス 応募資料

学 校 名	神崎町立神崎中学校	
ア 全校児童生徒数	104名	(令和5年5月1日現在)
イ 実践対象 (学年・人数など)	① 1年生(全クラス)34名 ② 2年生(全クラス)32名 ③ 3年生(全クラス)38名	
ウ 実践内容 (実施時期・概要など) ※画像の挿入可	① 香取特別支援学校との交流 6月:「芋掘り交流」に向けた芋苗植え 6月:香取特別支援学校の教員を講師に招いて「共生」についての講話 7月:香取特別支援学校での作業体験交流学习 10月:芋掘り交流学习    ② 福祉体験学習 9月:認知症サポーター養成講座 神崎町地域包括支援センター、リハビリ訪問介護ステーションNEXTかとりから講師を招いて認知症について学習した。 12月:車いすバスケットボール体験教室 車いすバスケットボールチーム所属の選手を講師に招き、競技体験を行った。   ③ 小見川高校生による出前授業・障害者理解 12月:白杖体験、車いす体験等  	
エ 実践の普及啓発 (地域等との交流や広報方法など)	① ・学校Webページに交流の様子の掲載 ・学校だよりに交流の様子の掲載(家庭配付、地域回覧) ・PTA広報に活動の様子の掲載 ② ・学校Webページに活動の様子の掲載 ・学校だよりに活動の様子の掲載(家庭配付、地域回覧) ③ ・学校Webページに活動の様子の掲載	

<p>才 実 践 成 果 (児童生徒の変化など)</p>	<p>①・講話を通して、自分の個性を知ることや、相手の個性を認めることが、共生をする上で大切なことを学ぶことができた。</p> <p>・交流を通して、どのような手助けや言葉掛けがよいのか、相手の立場に立って考えるようになった。</p> <p>②・認知症の種類、認知症の症状、認知症の方と話をするときの約束事や認知症サポーターとしての役割などを学習し、サポーターとして自分に何ができるか考えることができた。</p> <p>・車いすで試合をする中で、接触が多く激しいスポーツである車いすバスケットボールの難しさを実感し、選手たちの努力も感じることができた。</p> <p>③・肢体不自由に関しての説明を聞いたり、実際に疑似体験をしたりすることで、思うように動けないことなどについて実感することができた。また、どのようなサポートが必要か考えることができた。</p>
<p>か 次 年 度 の 予 定 (課題や改善策など)</p>	<p>①・引き続き交流活動を行っていききたい。コロナ禍のために回数が減ってしまったので、状況に応じて方法等を検討し、交流できる機会を増やしていききたい。</p> <p>②・認知症サポーター養成講座は、町社会福祉協議会に協力していただき毎年実施しているので今後も継続していく。</p> <p>・パラスポーツに接するよい機会であるので、今後も実施していききたい。</p> <p>③・当初予定していなかった体験ではあったが、障害者理解に関してよい学習機会であったので、高校との交流活動として、できれば毎年続けていききたい。</p>
<p>キ 添 付 資 料 (広報資料・Web 記事など)</p>	<p>①・学校Webページ (6月4日、6月13日、11月6日)</p> <p>・学校だより (6月号、11月号)</p> <p>②・学校Webページ (9月25日、12月4日)</p> <p>・学校だより (9月号)</p> <p>③・学校Webページ (12月8日)</p>

※A4サイズ2ページ以内に調整すること。